



# 2026年3月期 第3四半期 決算概要

シスメックス株式会社  
2026年2月12日

Together for a better  
healthcare journey

# Disclaimer

- ・本資料のうち、売上予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想数値と大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載されている製品等の情報は、薬事認可取得の有無に関わらず宣伝広告および医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- ・当社グループは、2017年3月期より国際会計基準（IFRS）を適用し、IFRSに準拠して開示しております。

# Index

1. エグゼクティブサマリー
2. 2026年3月期 第3四半期決算概要
3. 成長戦略の進捗
4. 2026年3月期 業績予想
5. 次期中期経営計画に向けて

(補足資料)

# 1. エグゼクティブサマリー

## 第3四半期累計実績

### ● 米州・EMEAが好調に推移するも、中国の市場環境の変化が継続しており、減収減益

前年同期比 売上高：98.4%、営業利益：72.3%、四半期利益\*：79.1%

\*親会社の所有者に帰属する四半期利益

#### 売上高

- 米州・EMEAは、ヘマトロジー・尿分野を中心に伸長
- 中国政府主導の医療費抑制政策の影響が継続。必要最小限の原則および代理店の在庫調整などにより、中国の売上は現地通貨ベースで前年同期比81.0%

#### 営業利益

- 販管費の適正化を進めるも、米国追加関税、売上減少による粗利減少などにより、減益

#### 四半期利益

- 為替影響およびライフサイエンスのピボットによる関係会社清算に伴う税効果などにより、計画通り(進捗率74.9%)

2026年3月期 通期業績予想

※ ( ) 内は対11月予想

## ● 売上高5,000億円 (△100億円)、営業利益620億円 (△140億円) へ下方修正

### 売上高

- 中国の市場環境変化の影響が想定以上に拡大したことに加え、日本でもメディカルロボット事業の計画を修正、その他地域の状況を踏まえ、下方修正

### 営業利益

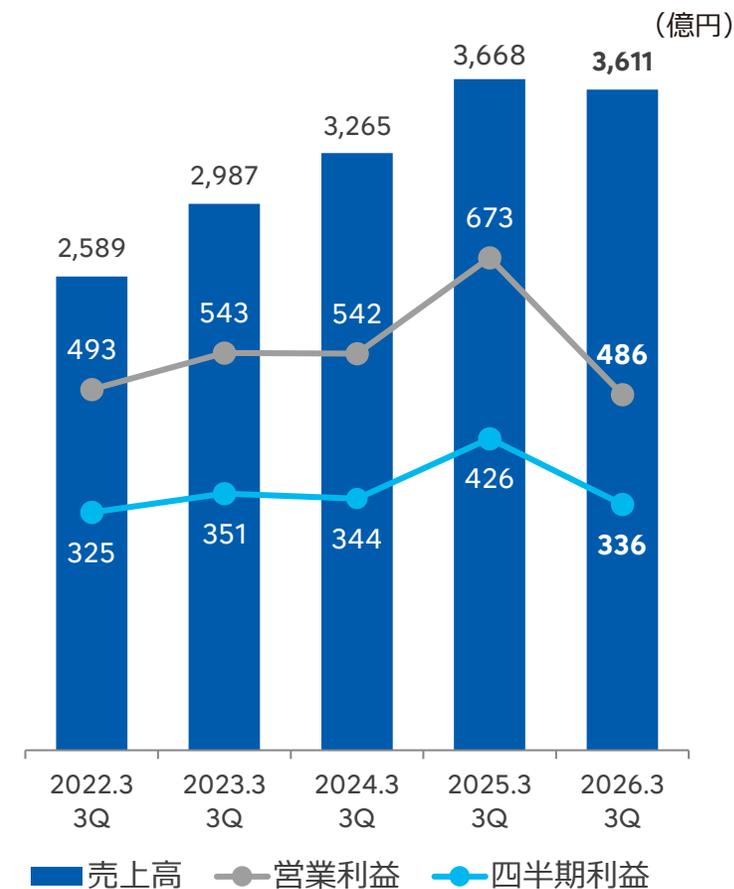
- 減収による粗利減やプロダクトミックスなどによる原価率の悪化を見込み、下方修正

## **2. 2026年3月期 第3四半期決算概要**

# 決算総括（対前年）



(億円)	2026年3月期3Q		前年同期		前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	<b>3,611.6</b>	<b>100%</b>	3,668.6	100%	<b>98.4%</b>
売上原価	<b>1,735.3</b>	<b>48.0%</b>	1,680.5	45.8%	<b>103.3%</b>
販売費及び一般管理費	<b>1,202.0</b>	<b>33.3%</b>	1,099.7	30.0%	<b>109.3%</b>
研究開発費	<b>204.4</b>	<b>5.7%</b>	225.4	6.1%	<b>90.7%</b>
その他の営業損益	<b>16.7</b>	<b>0.5%</b>	10.4	0.3%	<b>159.8%</b>
営業利益	<b>486.5</b>	<b>13.5%</b>	673.4	18.4%	<b>72.3%</b>
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	<b>336.9</b>	<b>9.3%</b>	426.1	11.6%	<b>79.1%</b>



- **売上高** : 主に中国の市場環境変化の影響により、減収
- **営業利益** : 売上減少による粗利減少や米国追加関税の影響などにより、減益

✓ **為替の影響** 売上高 △0.9 億円、販管費 +5.0 億円、営業利益 △26.8億円

✓ **前年同期為替レート適用の場合** 売上高 98.5%、販管費 108.9%、営業利益 76.2%

- **四半期利益** : △20.9%の減益も概ね計画通り（進捗率74.9%）

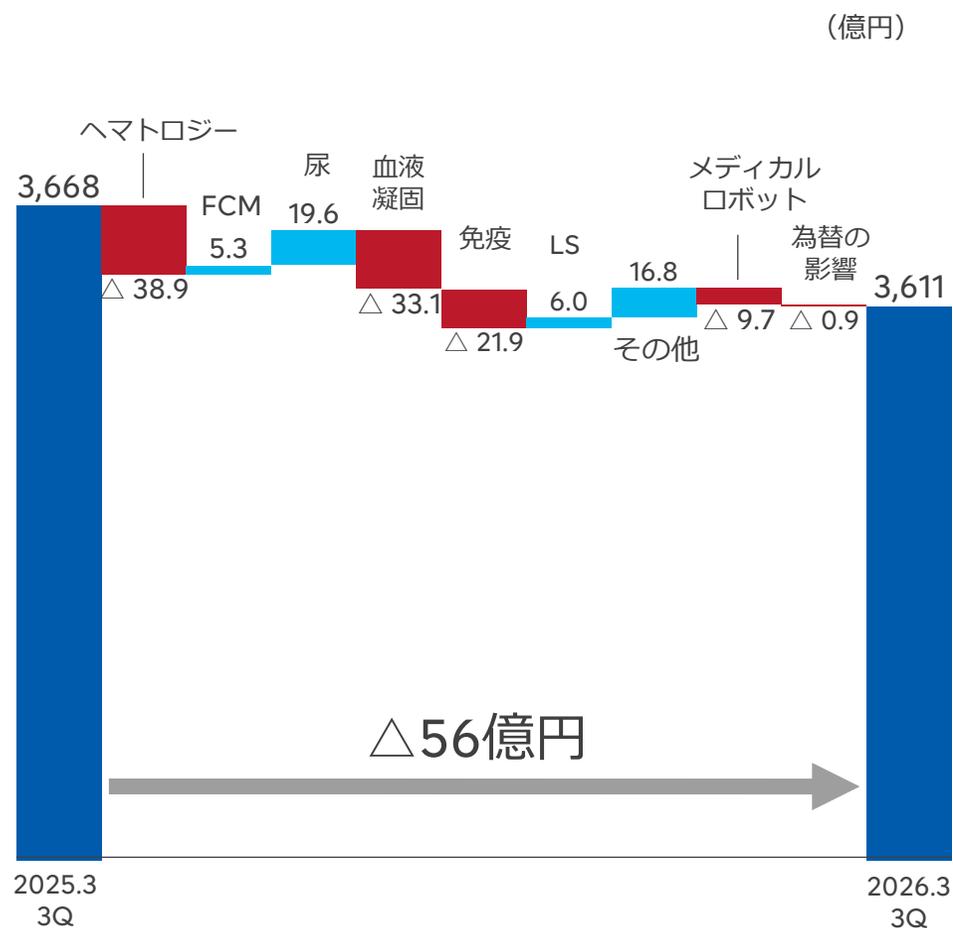
✓ **為替差損益** 20.1億円（前年同期比+44.1億円）

✓ **ライフサイエンスのピボットによる関係会社清算に伴う税効果の影響** +25.8億円

	2026年3月期3Q	前年同期
1USD	<b>148.7円</b>	152.6円
1EUR	<b>171.8円</b>	164.8円
1CNY	<b>20.8円</b>	21.2円

# 売上高の増減要因（事業別・分野別）

## 事業別・分野別売上高



(億円)	2026年3月期3Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	為替影響を除く
売上高	3,611.6	100.0%	98.4%	98.5%
ヘマトロジー	2,169.9	60.1%	98.1%	98.2%
FCM	29.4	0.8%	123.5%	122.3%
尿	320.3	8.9%	106.0%	106.5%
血液凝固	537.6	14.9%	93.9%	94.2%
免疫	159.5	4.4%	86.9%	88.0%
生化学	21.3	0.6%	80.4%	81.6%
ライフサイエンス	170.0	4.7%	106.9%	103.8%
その他	180.3	5.0%	116.0%	113.9%
ダイアグノスティクス事業	3,588.5	99.4%	98.7%	98.7%
メディカルロボット事業	23.1	0.6%	70.3%	70.3%

# 売上高の増減要因（地域別・品目別）

米州、EMEA、APは堅調に伸長も、日本・中国の影響により減収

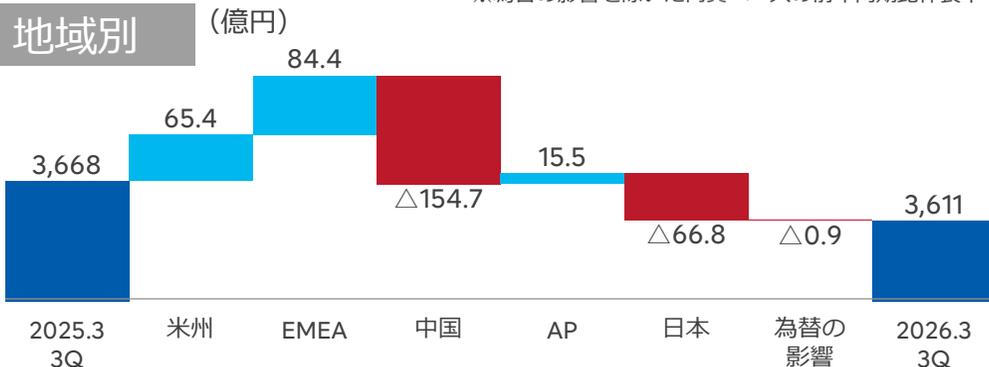
(億円)	2026年3月期3Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	3,611.6	100.0%	98.4%	98.5%*
米州	1,008.2	27.9%	104.6%	107.1%
EMEA	1,149.0	31.8%	111.7%	107.0%
中国	655.3	18.2%	79.9%	81.0%
AP	393.8	10.9%	102.6%	104.1%*
日本	405.0	11.2%	85.8%	-
機器	705.2	19.5%	99.0%	98.5%*
試薬	2,258.6	62.5%	98.6%	98.7%*
サービス	509.7	14.1%	100.8%	101.4%*
その他	138.0	3.8%	86.7%	85.7%*

## 地域別の主な増減要因

\*現地通貨ベース

米州	<ul style="list-style-type: none"> <li>北米は上期に続き好調を維持、中南米も2Q以降高い伸長を継続し、<b>増収</b>。3Q単では対前年+9.4%と高伸長を達成</li> </ul>
EMEA	<ul style="list-style-type: none"> <li>主要国および東欧においてヘマトロジー・尿分野が好調に推移し中東の減収を補い、<b>増収</b>。3Q単では対前年+12.6%と大幅伸長</li> </ul>
中国	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療費抑制政策（必要最小限の原則など）の影響が拡大、代理店の経営悪化・買い控えによる在庫調整も拡大し、<b>減収</b></li> </ul>
AP	<ul style="list-style-type: none"> <li>インドでの大型入札案件の期ずれが発生するも、その他の国・地域が伸長し、<b>増収</b></li> </ul>
日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度のヘマトロジー機器好調の反動や特殊要因の影響が残り、<b>減収</b></li> </ul>

※為替の影響を除いた円貨ベースの前年同期比伸長率



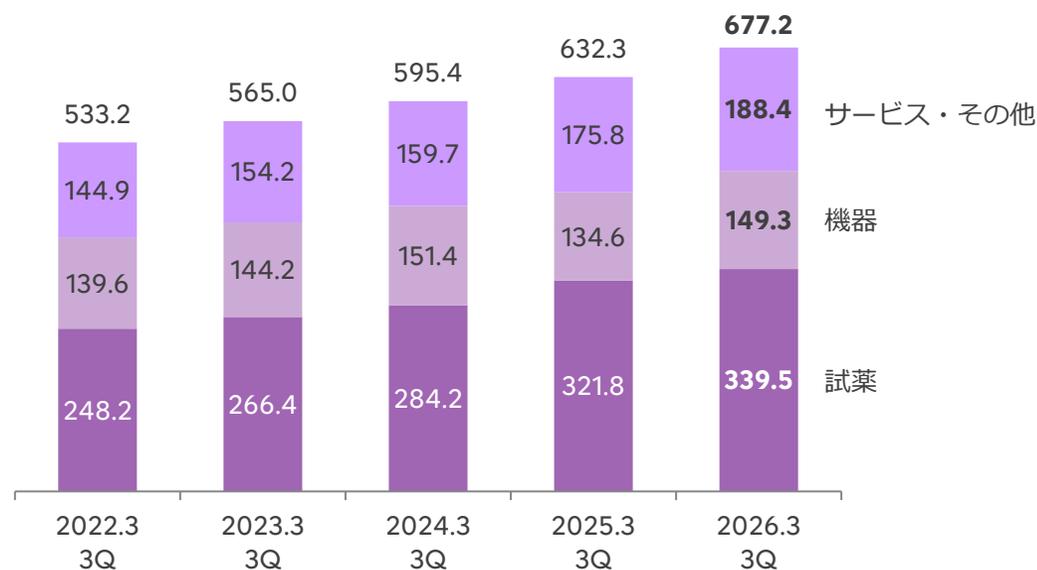
## 品目別 (億円)



# 米州 (地域別)

(Million USD)	2026年3月期 3Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	<b>677.2</b>	632.3	<b>107.1%</b>	104.6%
機器	<b>149.3</b>	134.6	<b>110.9%</b>	108.4%
試薬	<b>339.5</b>	321.8	<b>105.5%</b>	103.0%
サービス・その他	<b>188.4</b>	175.8	<b>107.1%</b>	104.6%

売上高推移 (Million USD)



北米は上期に続き好調を維持、中南米も2Q以降高い伸長を継続し、増収。3Q単では対前年+9.4%と高伸長を達成

## ● 機器

- ✓ 設置が順調に進み、ヘマトロジー・尿分野が好調に推移した他、血液凝固分野も伸長。
- ✓ 特に尿分野は大規模施設への設置も進み、さらなる伸長を見込む

## ● 試薬

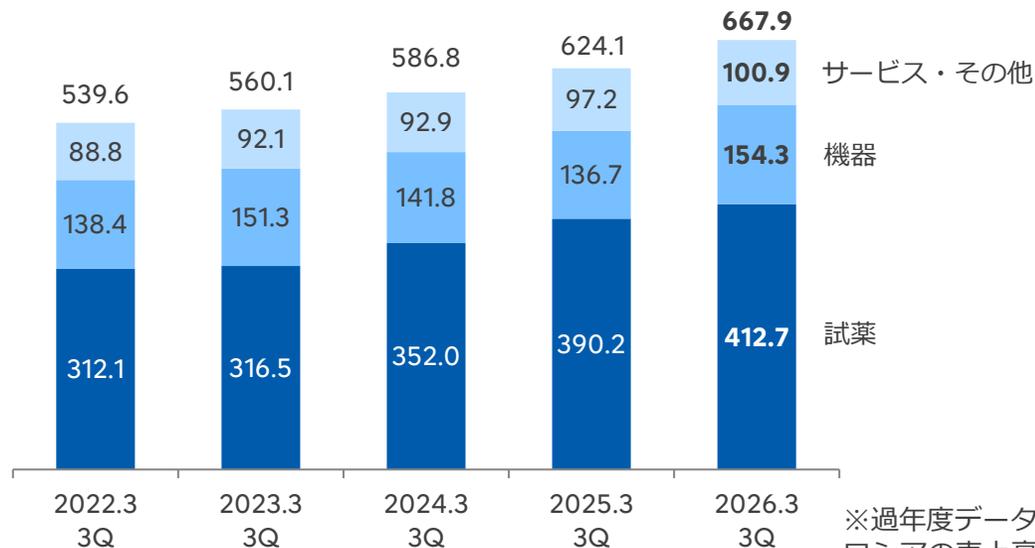
- ✓ ヘマトロジー・尿分野が順調に推移し、増収
- ✓ アミロイドβ検査試薬も堅調に推移 (売上高6.1 MUSD、対前年+24.9%)
- ✓ 血液凝固分野は、機器の伸長に伴い、今後試薬の増収を見込む

# EMEA (地域別)

(Million EUR)	2026年3月期 3Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	<b>667.9</b>	624.1	<b>107.0%</b>	111.7%
機器	<b>154.3</b>	136.7	<b>112.9%</b>	118.1%
試薬	<b>412.7</b>	390.2	<b>105.8%</b>	110.3%
サービス・その他	<b>100.9</b>	97.2	<b>103.8%</b>	108.4%

主要国および東欧においてヘマトロジー・尿分野が好調に推移し、増収。3Q単では対前年+12.6%と大幅伸長

売上高推移 (Million EUR)



※過年度データを含め、ロシアの売上高を除く

## ● 機器

- ✓ 直販体制効果によりイタリアでヘマトロジー・尿分野が好調に推移
- ✓ チェコやドイツなどでXR™シリーズが伸長
- ✓ 血液凝固分野は、ドイツに加え、ハンガリー、チェコなどで大型案件を獲得、今後の売上に貢献見込み

## ● 試薬

- ✓ トルコ、サウジアラビアで減収も、主要国が好調に推移し、全分野で伸長
- ✓ 血液凝固分野は機器稼働台数の増加に伴い、ドイツ、エジプトなどで伸長

# 中国（地域別）

(Million CNY)	2026年3月期 3Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	<b>3,150.7</b>	3,888.6	<b>81.0%</b>	79.9%
機器	<b>381.8</b>	458.9	<b>83.2%</b>	82.4%
試薬	<b>2,444.3</b>	2,920.4	<b>83.7%</b>	82.4%
サービス・その他	<b>324.5</b>	509.2	<b>63.7%</b>	63.1%

医療費抑制政策（必要最小限の原則など）の影響が拡大、代理店の経営悪化・買い控えによる在庫調整も拡大し、減収

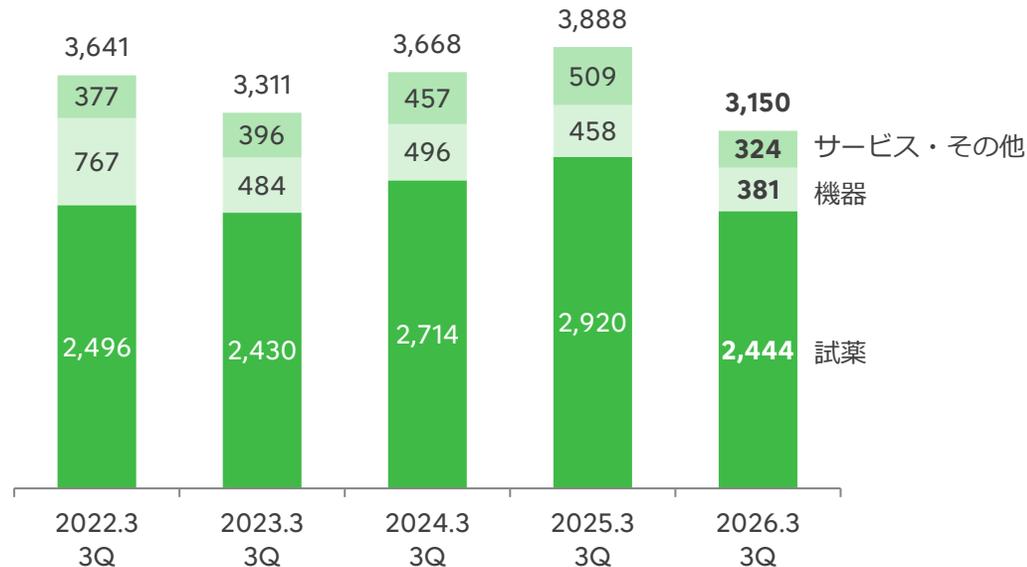
## ● 機器

- ✓ 代理店の在庫調整などにより、減収
- ✓ 血液凝固分野はロックダウン生産効果により前年度下期から堅調に推移し、増収

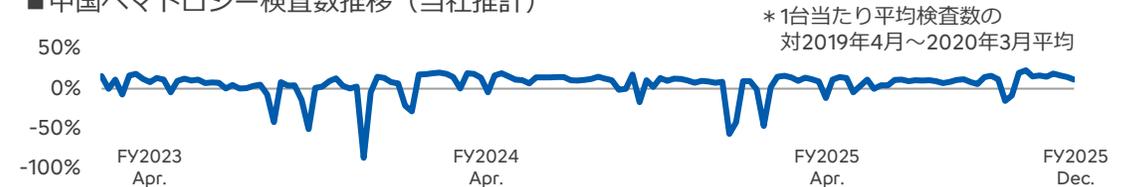
## ● 試薬

- ✓ 必要最小限の原則の影響拡大により、特に血液凝固分野の検査数減少が大きく影響
- ✓ ヘマトロジー検査数の推移に大きな変化は無し

売上高推移 (Million CNY)



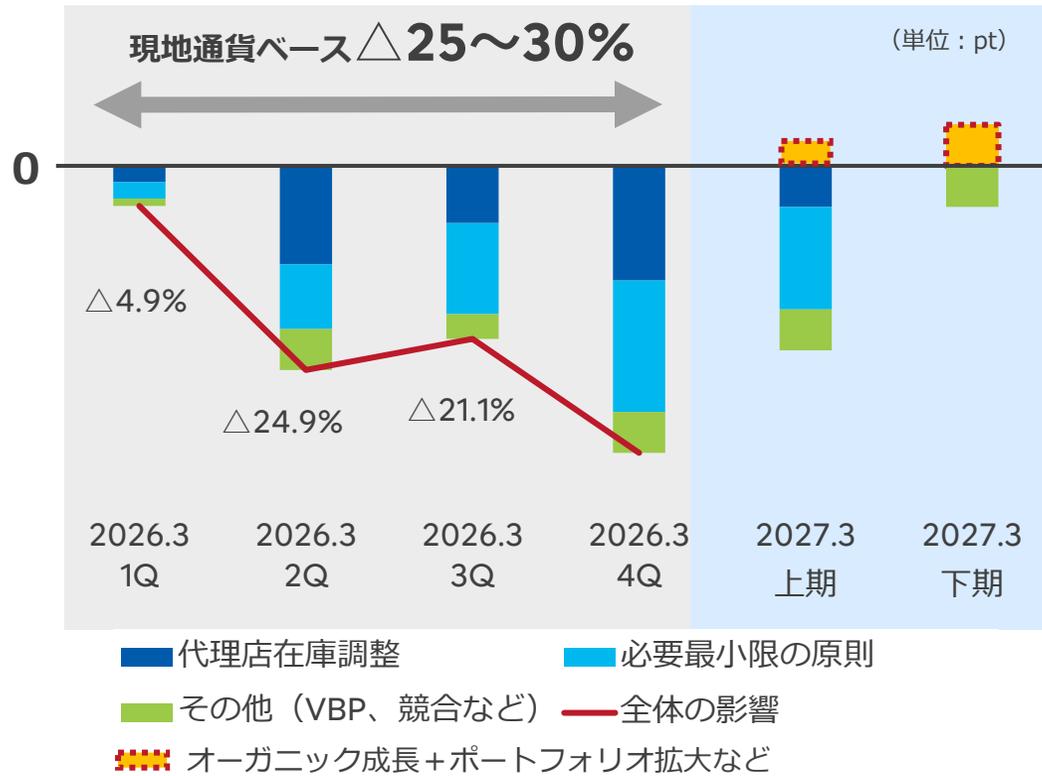
■ 中国ヘマトロジー検査数推移（当社推計）



# 中国における今後の見通し

前年同期比で4Qが最も落ち込む想定  
 次年度以降は減少幅（前年同期比）が徐々に縮小し、下期には横ばいの水準

中国市場の環境変化影響 対前年同期比推移  
 (イメージ)



## 現状

- 必要最小限の原則の影響
  - 特に血液凝固分野 (D-Dimerなど) の減少幅が増加
- 代理店の在庫調整
  - 影響が継続中

## 見通し

### 4Q

- 必要最小限の原則：血液凝固分野の減少幅が増加
- 代理店の在庫調整：機器の減少は想定範囲内  
 試薬・消耗品は想定以上に減少

### 次年度

上期：対前年マイナス影響が継続  
 下期：前年同等水準を維持

2024年病院数と患者数の増減

	病院		外来患者	
	病院数	増減 (対2023年)	患者数 (億人)	伸長率 (対2023年)
3級	4,111	+256	28.7	9.1%
2級	12,294	+348	12.2	0%
1級	13,287	+35	2.5	0%

# AP (地域別)

(億円)	2026年3月期 3Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	<b>393.8</b>	383.7	<b>102.6%</b> (104.1%)
ダイアグノスティクス事業	<b>392.6</b>	383.4	<b>102.4%</b>
機器	<b>74.5</b>	81.9	<b>91.1%</b>
試薬	<b>278.8</b>	259.1	<b>107.6%</b>
サービス・その他	<b>39.2</b>	42.7	<b>92.5%</b>
メディカルロボット事業	<b>1.2</b>	0.3	<b>336.1%</b>

インドでの大型入札案件の期ずれが発生するも、その他の国・地域が伸長し、増収

## ダイアグノスティクス事業

### ● 機器

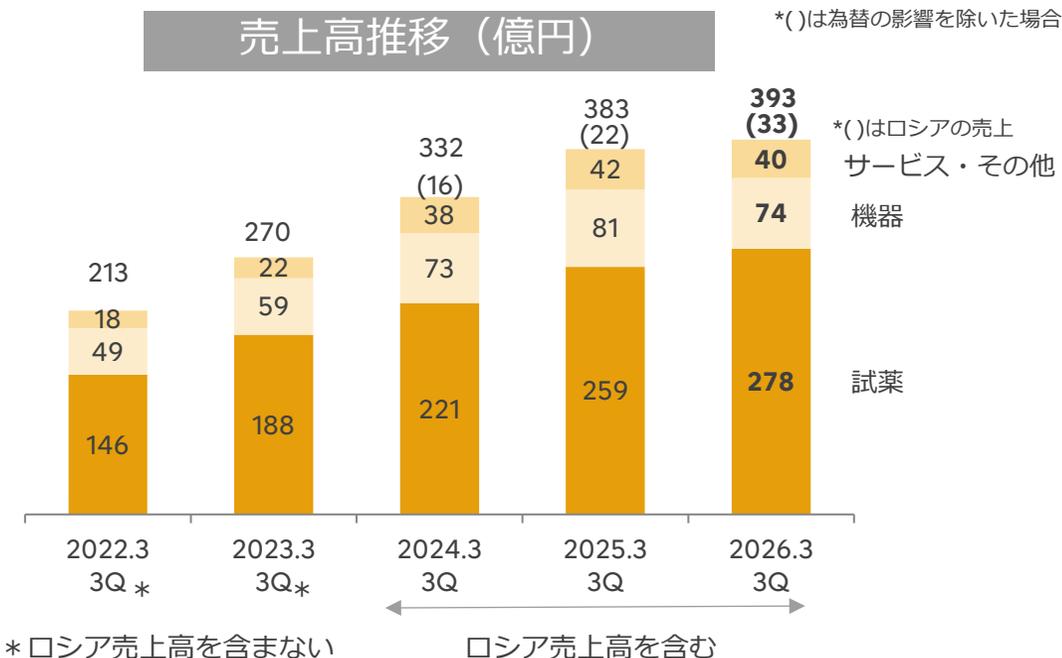
- ✓ インドネシアでの減収に加え、インドなどで大型案件の期ずれが発生し、減収
- ✓ 4Qは、予定されている大型入札案件獲得により、大幅伸長を見込む

### ● 試薬

- ✓ マレーシアにおける血液凝固分野の大幅伸長に加え、ヘマトロジー、尿、免疫分野も好調に推移し、増収

## メディカルロボット事業

- ✓ 累計導入台数：4台
- ✓ シンガポール、マレーシアともに150症例以上実施されるなど、手術数は順調に増加



# 日本（地域別）

(億円)	2026年3月期 3Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	<b>405.0</b>	471.9	<b>85.8%</b>
ダイアグノスティクス事業	<b>383.1</b>	439.3	<b>87.2%</b>
機器	<b>55.8</b>	85.2	<b>65.6%</b>
試薬	<b>256.7</b>	281.9	<b>91.1%</b>
サービス・その他	<b>70.5</b>	72.1	<b>97.7%</b>
メディカルロボット事業	<b>21.9</b>	32.5	<b>67.4%</b>

前年度のヘマトロジー機器好調の反動や特殊要因の影響が残り、減収

## ダイアグノスティクス事業

### ● 機器

- ✓ 前年度のヘマトロジー分野好調の反動により、減収
- ✓ 血液凝固分野のCN™-700、免疫分野のHISCL™-5000 ミッドスケールチェンジなど、新製品の市場導入を実施

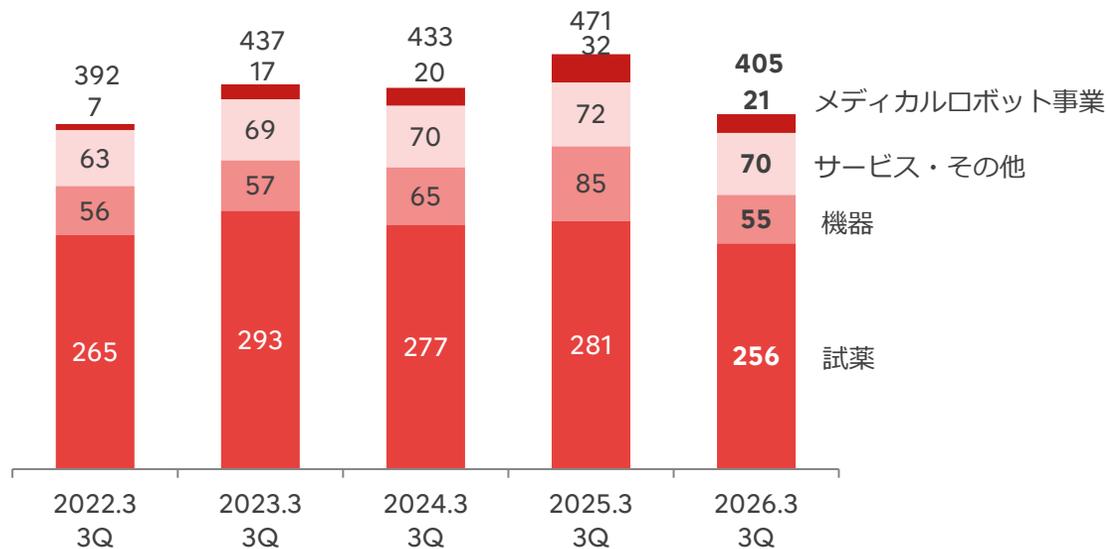
### ● 試薬

- ✓ 1Q特殊要因に加えCovid-19検査の減少などにより、減収
- ✓ 複数の新規免疫試薬項目を販売開始、今後の貢献を見込む

## メディカルロボット事業

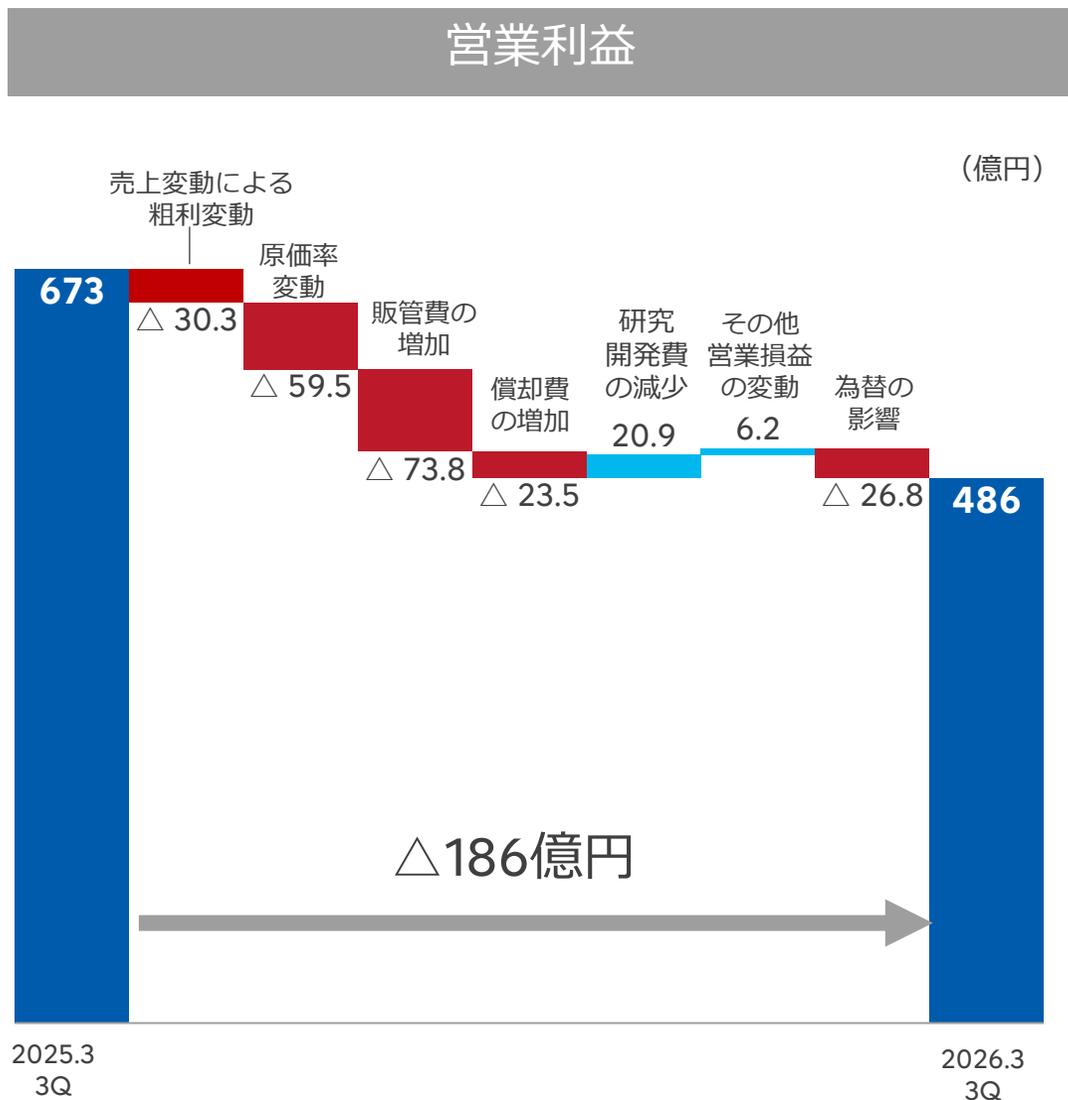
- ✓ 病院の設備投資意欲が弱く新規設置台数は前年度を下回るも、累計稼働台数は96台（グローバル100台）と伸長
- ✓ 今期累計導入台数：10台（グローバル11台）

売上高推移（億円）



# 営業利益の増減要因 (対前年)

※下記数値・コメントは為替の影響を除く



- 売上変動による粗利変動：△30.3億円
  - 原価率変動による影響：△59.5億円 (1.6pt悪化)
    - ✓ 改善要因：ロジコストの改善 0.1 pt
    - ✓ 悪化要因：プロダクトミックスの影響 0.5 pt  
1Q 発生 of 棚卸資産の評価額見直し影響 0.5 pt  
サービスコストの悪化 0.5 pt、関税の影響 0.3 pt
  - 販売管理費の増加：△73.8億円
    - ✓ 労務費：直販地域拡大に伴う人員増や単価増：△31億円
    - ✓ 経費：規模拡大や販促活動による増加：△25億円
  - 償却費の増加：△23.5億円
  - 研究開発費の減少：20.9億円
    - ✓ 製品開発への投資継続も、研究開発テーマの精査などにより減少
  - その他営業損益の変動：6.2億円
- 
- 為替の影響：△26.8億円

# 3. 成長戦略の進捗

～ 既存事業の強化・新興国戦略・新規事業の拡大 ～

# 3つの成長戦略：既存事業の強化（血液凝固分野）

強固なヘマトロジー基盤と新製品の投入により  
価値提供領域を拡げ、顧客満足の上と収益成長を加速させる

## ● ブランド力を活かした市場展開を加速

EMEA：ドイツなどで大型案件を獲得



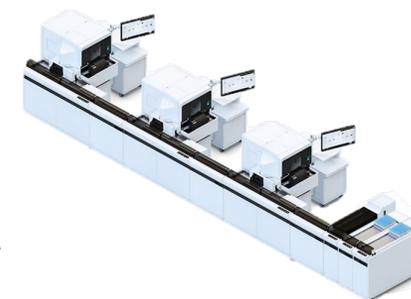
全自動血液凝固測定装置 CNシリーズ



● 大型・新規案件獲得した主な国

## ● 上位市場でのプレゼンス向上

- ✓ タッチフリーコンセプトを血液凝固分野へ展開



CN™-9000 Automated Hemostasis Solution

北米：CN-9000の発売開始

## ● 中下位市場での競争優位性を拡充

- ✓ 上位機種のパフォーマンスをコンパクトに踏襲
- ✓ 新興国での市場導入も視野



全自動血液凝固測定装置 CN-700

日本：CN-700の発売開始

# 3つの成長戦略：既存事業の強化（免疫分野）

アルツハイマー病検査におけるプレゼンスの向上と市場浸透により成長拡大を目指す

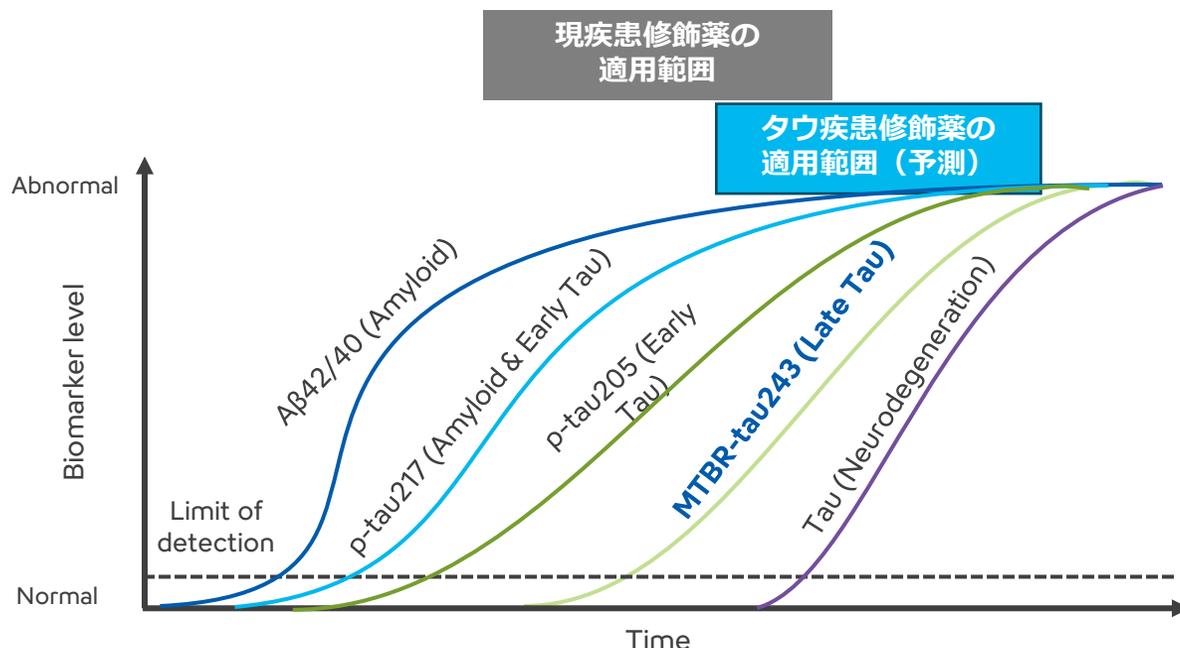
## ● 国際学会でのMTBR-tau243発表

- ✓ 血液を検体とした、イムノアッセイ法での発表は世界初
- ✓ タウ疾患修飾薬の創薬パートナーからの期待

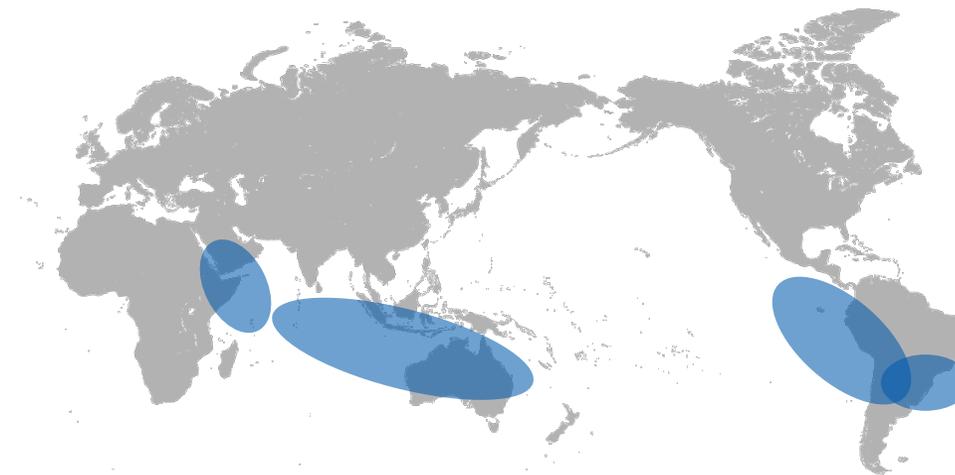
## ● 早期市場参入による市場優位性の向上

富士レビオHD社との販売協業を開始

- ✓ 富士レビオHD社の豊富なラインナップ
- ✓ シスメックスのグローバルな販売ネットワーク
- ✓ KOLとの連携強化やガイドライン策定への参画



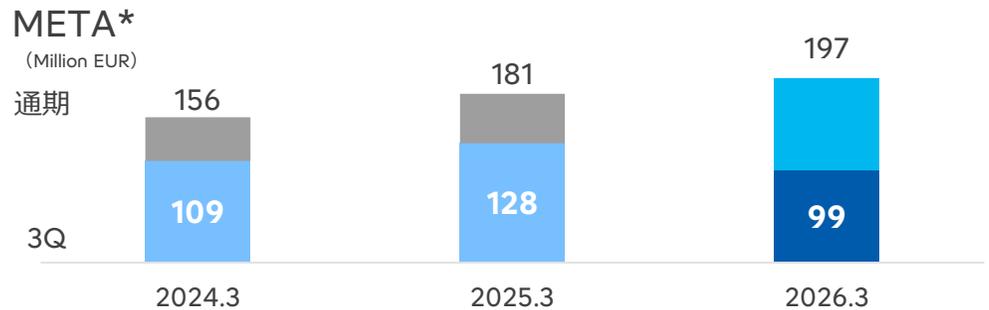
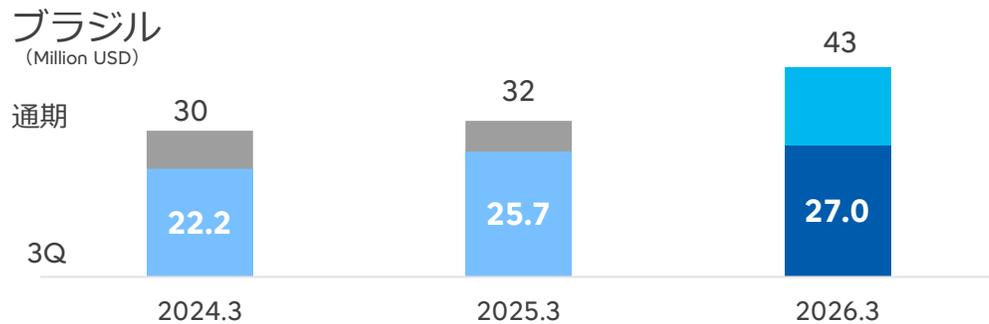
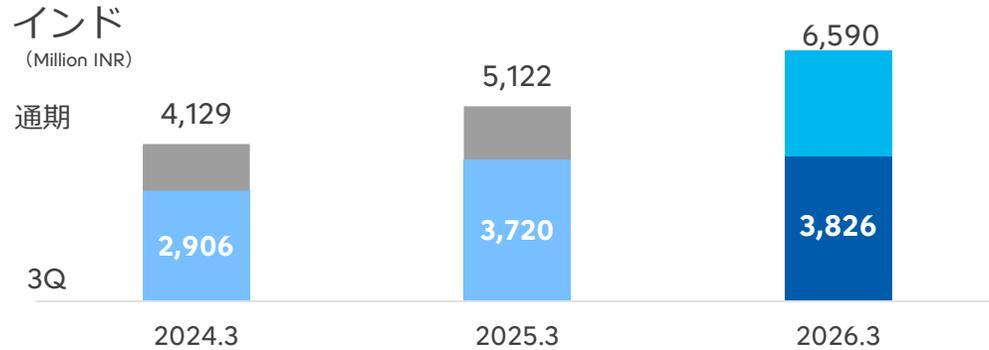
抗アミロイド疾患修飾薬に加え、抗タウ疾患治療薬の登場を見据えた血液検査の開発を推進



※対象国：ブラジル、中南米、中東、アジアから

先進国におけるHISCLシリーズの展開に加え、グローバル展開の推進を狙う

# 3つの成長戦略：新興国戦略



\*META : Middle East, Turkey, Africa地域

## 新興国における競争優位性の発揮

### ● インド：政府調達案件への対応推進

- ✓ 新生産拠点にて、Make in India Class I を達成  
さらに、欧州規制IVDD CEマークを取得



インド市場向け  
多項目自動血球計数装置 XQ™-320

### ● ブラジル：長年の「高い顧客満足度」が築いた揺るぎない信頼

- ✓ ブラジル大規模の検査センターにて、競合の低価格戦略を退け、リテンションに成功

### ● マレーシア：機器更新に留まらず、ラボ全体の課題解決を提案

- ✓ 他社が最重要顧客として位置づけるリファレンスラボにて、当社の採用が決定



多項目自動血球分析装置 XRシリーズ

XRシリーズの  
複数システム導入確定



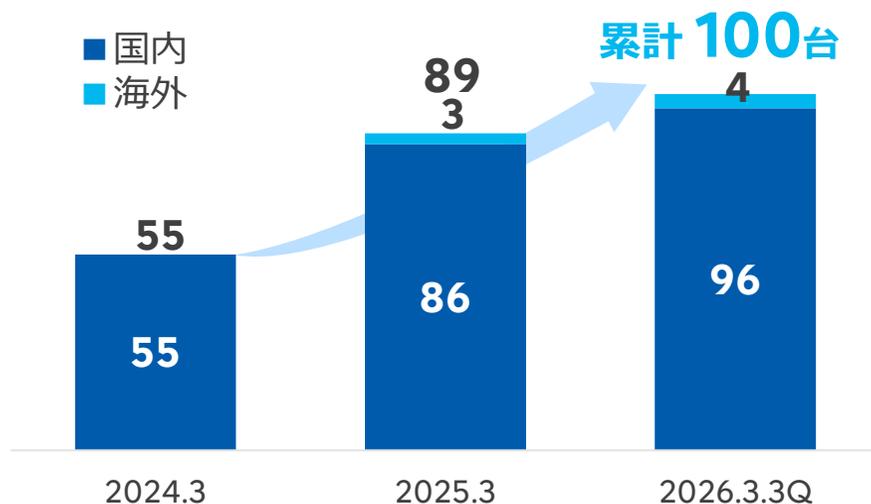
# 3つの成長戦略：新規事業の拡大（メディカルロボット事業）



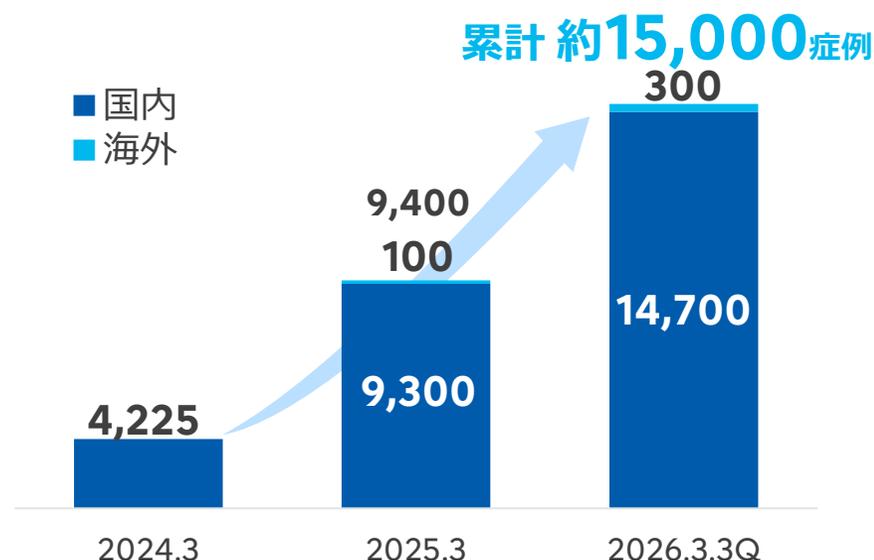
累計設置100台を通過点とし、さらなる市場浸透と症例数増を加速

- ✓ 日本：柔軟な販売スキーム展開と大学病院機能強化事業の補助金を追い風に、更なる普及を目指す
- ✓ AP：拡大するアジア市場での症例増を背景に、今後の参入国の選定と導入体制整備を推進
- ✓ 欧州：薬事認可取得を前提に、最適な市場参入モデルの構築を推進

### hinotori™グローバル累積台数推移



### 累積症例数の推移



# 4. 2026年3月期 業績予想

# 2026年3月期 通期業績予想修正



緑字：予想（2025年11月）からの変更箇所

## 売上高・営業利益・当期利益\*を下方修正

\*親会社の所有者に所属する当期利益

(億円)	2026年3月期 第3四半期累計 (4月-12月)			2026年3月期 通期 (4月-3月)		2026年3月期 通期 (4月-3月)			
	実績	構成比	対11月 予想 進捗率	11月 予想	構成比	2月 修正予想	構成比	対前年	対11月 予想
売上高	3,611.6	100%	70.8%	<b>5,100</b>	100.0%	<b>5,000</b>	100.0%	98.3%	△ <b>100</b>
売上原価	1,735.3	48.0%	-	<b>2,415</b>	47.4%	<b>2,440</b>	48.8%	103.1%	<b>+25</b>
販売費及び 一般管理費	1,202.0	33.3%	-	<b>1,635</b>	32.1%	<b>1,650</b>	33.0%	109.4%	<b>+15</b>
研究開発費	204.4	5.7%	-	<b>300</b>	5.9%	<b>300</b>	6.0%	95.4%	-
その他営業損益	16.7	0.5%	-	<b>10</b>	-	<b>10</b>	0.2%	-	-
営業利益	486.5	13.5%	64.0%	<b>760</b>	14.9%	<b>620</b>	12.4%	70.8%	△ <b>140</b>
親会社の所有者 に帰属する当期 利益	336.9	9.3%	74.9%	<b>450</b>	8.8%	<b>410</b>	8.2%	76.4%	△ <b>40</b>

### 投資計画

設備投資 **500**億円

減価償却費 **450** 億円

ROE

**8.5%**

### ● 想定為替レート

	通期 (2025年11月修正)	通期 (2026年2月修正)	4Q単 (2026年2月修正)
1 USD	148.5円	<b>150.0円</b>	<b>154.0円</b>
1 EUR	171.5円	<b>174.6円</b>	<b>183.0円</b>
1 CNY	20.8円	<b>21.1円</b>	<b>22.0円</b>

### ● 為替感応度の概算値 (4Q単四半期)

	売上	営業利益
USD	<b>2.2億円</b>	<b>0.3億円</b>
EUR	<b>1.8億円</b>	<b>0.1億円</b>
CNY*	<b>0.9億円</b>	<b>0.5億円</b>

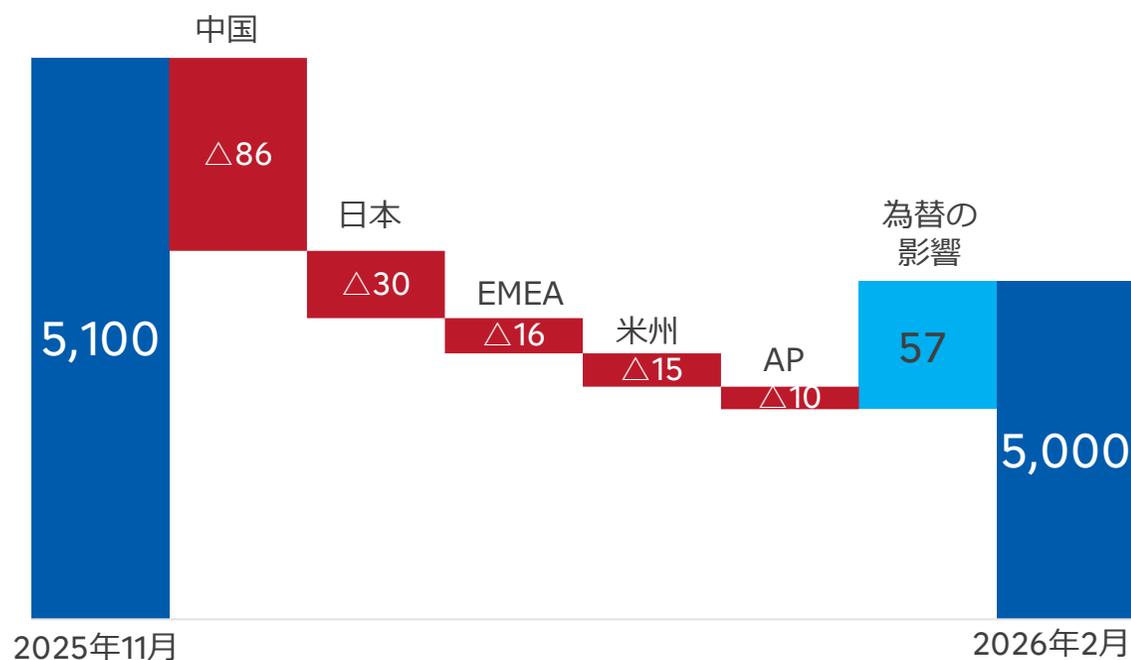
\*0.1円変動時

# 2026年3月期 通期業績予想修正 変動要因



## 売上高

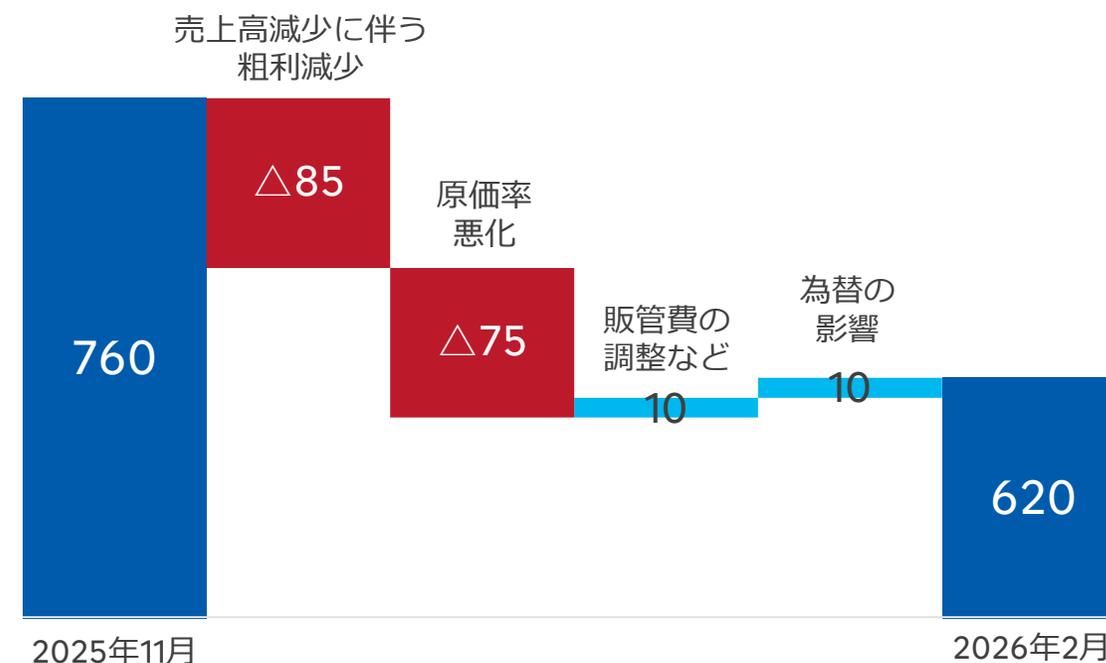
(億円)



- 中国で必要最小限の原則、代理店の在庫調整影響が想定以上に拡大
- 日本でもメディカルロボット事業の計画を修正

## 営業利益

(億円)



- 各地域での売上高減少に伴う粗利減少
- プロダクトミックスなどの影響による原価率悪化

# 2026年3月期 四半期推移実績・予想

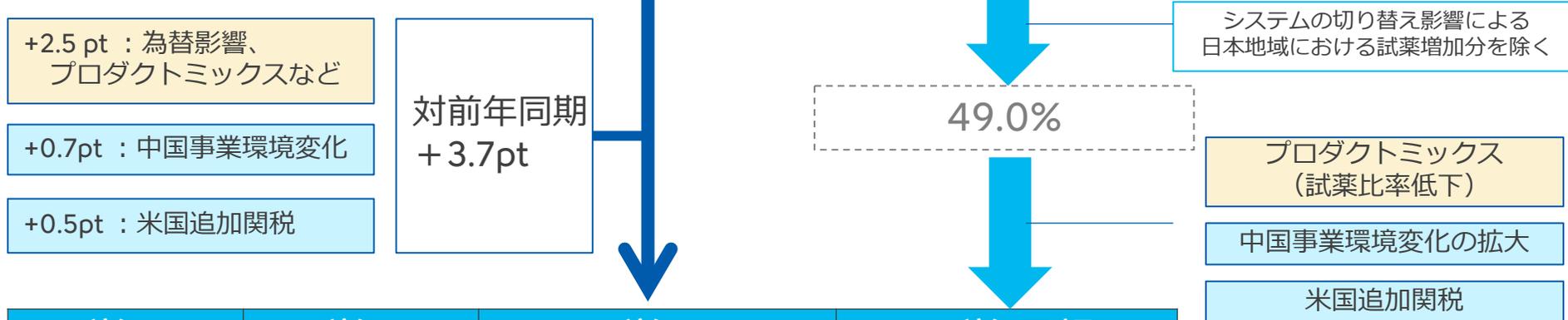


(億円)	2026年3月期1Q (4月-6月)		2026年3月期2Q (7月-9月)		2026年3月期3Q (10月-12月)		2026年3月期4Q (1月-3月)	
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比	予想	構成比
売上高	1,057.3	100%	1,267.9	100%	1,286.4	100%	<b>1,388</b>	<b>100%</b>
売上原価	512.6	48.5%	587.0	46.3%	635.6	49.4%	<b>704</b>	<b>50.8%</b>
販売費及び 一般管理費	382.9	36.2%	395.7	31.2%	423.3	32.9%	<b>447</b>	<b>32.3%</b>
研究開発費	64.0	6.1%	67.9	5.4%	72.4	5.6%	<b>95</b>	<b>6.9%</b>
その他の営業損益	8.6	0.8%	6.0	0.5%	1.9	0.2%	<b>△7</b>	<b>—</b>
営業利益	106.2	10.1%	223.2	17.6%	156.9	12.2%	<b>133</b>	<b>9.6%</b>
親会社の所有者に 帰属する当期利益	45.5	4.3%	144.6	11.4%	148.5	11.5%	<b>73</b>	<b>5.3%</b>

# 四半期ごとの原価率

2025年3月期  
単四半期原価率

1Q単	2Q単	3Q単	4Q単
46.4%	45.4%	45.7%	48.4%



2026年3月期  
単四半期原価率  
実績・予想

1Q単(実績)	2Q単(実績)	3Q単(実績)	4Q単(予想)
48.5%	46.3%	49.4%	<b>50.8%</b>

# 参考 | 2026年3月期業績予想（事業・分野別・地域別売上高）



## 事業・分野別売上高

(億円)

	2026年3月期	前年同期比
ヘマトロジー分野	2,995	98.8%
FCM分野	50	137.4%
尿分野	465	113.9%
血液凝固分野	720	87.4%
免疫分野	215	83.1%
生化学分野	30	82.6%
ライフサイエンス	245	114.9%
その他	245	109.3%
ダイアグノスティクス事業	4,965	98.7%
メディカルロボット事業	35	65.2%
合計	5,000	98.3%

## 地域別売上高

(億円)

	2026年3月期	前年同期比
米州	1,390	106.0%
EMEA	1,615	115.0%
中国	860	72.9%
アジア・パシフィック	555	108.1%
日本	580	85.6%

緑字：変更箇所

# 5. 次期中期経営計画に向けて

# 次期中期経営計画のポイント

- **既存事業の成長持続に拘る**
  - 新たなソリューションを載せたフラッグシップのグローバル展開
- **シスメックスの「強み」を活かしたデジタルトランスフォーメーションの加速**
  - ヘルスケアジャーニーの質と顧客価値を高めるソリューション開発のチャレンジ
  - 企業活動の効率性・生産性を次のステージへ変革する
- **中国の事業環境変化など世界の地政学および経済安全保障リスクを前提とした経営へ**
- **グループ収益を意識した事業ポートフォリオと製品パイプラインのマネジメント強化**
- **次の成長ステージを担う次世代人材の育成と獲得**
- **資本効率の改善、自己株式取得を含めた株主還元の拡充**

**(補足資料)**

# トピックス（2025年10月～2026年1月）



## ダイアグノスティクス事業

### 複数分野で新製品を発売開始

- CNシリーズの大規模検査室向け「CN-9000 Automated Hemostasis Solution」を北米で販売開始（米州）
- CNシリーズのコンパクトモデル「全自動血液凝固測定装置 CN-700」を販売開始（日本）
- 「全自動免疫測定装置 HISCL -5000」ミッドスケールチェンジ（Mid-Scale change）を販売開始（日本）
- 敗血症検査項目であるプロカルシトニン測定試薬「HISCL™ PCT 試薬」を販売開始（日本）

## サステナビリティ

### 事業基盤を強化し、持続的な成長力強化へ

- CDP 2025 「気候変動」Aリストに選定
- 次世代育成支援対策推進法に基づく厚生労働大臣認定「くるみん」にて、最高位の「プラチナくるみんプラス」認定を取得
- 性的マイノリティに関する取り組み指標「PRIDE指標」で最高位ゴールドを4年連続受賞

Together for a better  
healthcare journey